



2026年3月3日

各位

会社名 サイバートラスト株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司
(コード番号：4498 東証グロース)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也
(TEL 03-6234-3800)

2026年3月期 第3四半期決算に関する質疑応答集2

当社の2026年3月期 第3四半期決算に関して、当社で想定していました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

Q1 昨今のAIの進展や自律型AIエージェントの台頭に伴うIT業界への影響（いわゆる「SaaSの死」など）に関して、当社の業績や事業展開に与える影響について教えてください

A1 当社といたしましては、AIの進展は、当社の業績および主要サービスへ成長機会をもたらすプラス面での影響が大きいと分析しております。

その根拠として、当社事業の「トラストサービス」および「プラットフォームサービス」は、AIにより変革が進むとされるアプリケーションサービス（SaaS）とは異なり、ITインフラの基盤要素を担うサービスである点が挙げられます。当社の主要なサービスから見ると、AIもこれら基盤要素の上で動くアプリケーションの一つとして位置付けられます。

主要なサービスにおける具体的な成長機会は以下の通りに見込んでおります。

・プラットフォームサービスにおける成長機会

Linuxサポートサービスにおいては、昨今のAI需要に伴ったデータセンター、およびローカルAIでのサーバー需要の急増により、ますますLinuxの活用は広がってまいります。

企業システムでのAI基盤ではOSを含むインフラの信頼性や安全性が求められることから、AI活用環境の普及に伴い、AlmaLinuxを中心としたLinuxサポートサービスの必要性が高まるものと見込んでおります。

・トラストサービスにおける成長機会

高成長牽引サービスである「iTrust」においては、「コンテンツ認証情報」と呼ばれる、デジタルコンテンツの出所と編集履歴を証明するためのオープンな技術標準「C2PA」に準拠した、サービスを提供しております。これにより、画像や動画などのデジタルコンテンツの改ざんや偽造を防ぐとともに、特定のAIによって生成されたものであるか否かを識別・証明することも可能となるサービスです。

さらに、さまざまなAIエージェントが複数連携して自動的に作業を進めるにあたり、「そのAIエージェントは信頼できるか」、「作られたデータが改ざんされていないか」といった、AI生成データ

の信頼性を確保するためにもトラストサービスは有効に機能します。

以上のように、AI を利用する上で必須となる OS の提供・サポート、ならびに AI 自体および AI 生成データの信頼性を確保するためのトラストサービスの重要性と必要性は、今後ますます高まると考えております。

したがって、AI の進展や本格的な活用は、将来的に当社業績ならびに事業展開にとってビジネスをさらに拡大させる機会になると捉えております。

* iTrust®は当社の登録商標です。

* その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上